

# WhoisXML APIがTyposquatting Data Feedをアップグレード

2024年1月4日

WhoisXML APIではこのほど、Typosquatting Data Feedのアップデート版をリリースしました。新バージョンでは、タイポスクワッティングのカバレッジを拡大し、不審なドメイン名の識別力を強化しています。

前バージョンからの変更点は以下の通りです：

- **カバレッジの向上**：国コードトップレベルドメイン（ccTLD）も対象に含め、より幅広いドメインを網羅しています。
- **類似性検出の強化**：より広範囲にわたってドメイン類似性を検知できる強化版のアルゴリズムを採用しています。
- **新たなデータ生成スケジュール**：日次ファイルを翌日に生成するようになりました。精度とカバー範囲が向上しています。

アップグレード版のTyposquatting Data Feedは、以下を含む様々な場面で力を発揮します：

- **サイバー犯罪の検出および対策**：サイバーセキュリティの専門家やセキュリティチームは、フィッシング、スパム、マルウェア対策として、大量登録されたドメイン名をこのデータフィードで追跡、フィルタリングできます。
- **セキュリティソリューションの充実**：Typosquatting Data FeedをSIEM、SOARおよび脅威インテリジェンスプラットフォームに統合することで、タイポスクワッティング検出機能を追加できます。

- **ブランドの保護**：企業は、大量に登録されたドメイン名に含まれる自社のブランド名や会社名を調べ、ドメイン名の誤用または不正利用を検出することができます。

Typosquatting Data Feedのフィードは、引き続き**Basic**、**Enriched**、**Community**の各データ形式にて、日次、週次または月次更新のダウンロード可能なCSVファイルにてご利用になれます。

データフィードのサンプルは[こちら](#)でダウンロードいただけます。詳細につきましては、[こちら](#)までお気軽にお問い合わせください。新しくなったTyposquatting Data Feedが貴社の業務プロセスにもたらす具体的なメリットをご説明いたします。